



◆巻頭言 安全

我々の生活の中でいつも耳にする言葉に「安全」という言葉があります。生活行動上の安全、作業上の安全、職場での仕事上の安全等。栄区では安心安全の町づくり・セーフティ活動を実施しています。

世界がグローバル化され、小さな行動、考えがすぐに地球規模で広がっていく中、自分の身の回りだけの安全とってられないこの頃を感じます。と考えると、究極の安全イコール、地球の安全ということではないでしょうか。全世界の人々が地球の安全ということを実際に考えたら、すべての活動がここに収斂され、行動が変わっていくのではないのでしょうか。

地震、噴火、豪雨、竜巻、台風、ハリケーン…地球規模で大荒れの昨今です。また様々な影響が懸念される「地球温暖化」で“青い水の惑星”が泣いています。核の開発に始まり、無秩序な開発による環境破壊、人間に都合の良い利便性、利害むき出しの戦争、挙げればきりがありません。

昨今の災害は、地球を痛めつけている人間への警告、地球が自身の体を守るための訴えかな？と思うのは間違いでしょうか。地球あっての人間・生物、この地球の上で生きていくなら、地球を大切に、地球の安全を考えて、人間と生物の共存を謙虚に考える時なのではないでしょうか。
(山上記)



次回の予定 ● 30年11月、12月活動予定

① 日時： 11月11日(日) 9:30~14:30 定例作業

- ・集合場所： 池の下広場倉庫前 ・集合時間： 9:30
- ・作業場所： 尾根道・大丸エリア(区域 A)
- ・作業目的： 管理型スギ林への保全作業(オオタカの幼鳥の舞える林へ)
： ボランティア塾生の体験講座
- ・作業内容： 林床整理(ネザサ・アオキ・枯れ木の除伐)
： ボラ塾生への伐採実習

※次世代木(広葉樹)は遺して下さい。

- ・持ち物： 常備具(カマ・手ノコ・ナタ)、お弁当、飲料水、防虫剤、他必需品
【持参器具】作業旗、シート、救急箱、チェーンソー、ロープ、カケヤ、刈払機

② 日時： 11月25日(日) 9:30~14:30 定例作業

- ・集合場所： 池の下広場倉庫前 ・集合時間： 9:30
- ・作業場所： 尾根道・大丸エリア(区域 A)

- ・作業目的: 管理型スギ林への保全作業(オオタカの幼鳥の舞える林へ)
- ・作業内容: 林床整理(ネザサ・アオキ・枯れ木の除伐)
: カントリハッジ・ウォーターバーの設置
※次世代木(広葉樹)は遺して下さい。
- ・持ち物: **常備具(カマ・手ノコ・ナタ)**、お弁当、飲料水、防虫剤、他必需品
【持参器具】作業旗、シート、救急箱、チェンソー、ロープ、カケヤ、刈払機

③ 日時: 12月1日(土) 9:30~12:30 臨時活動

- ・集合場所: 管理ヤード ・集合時間: 9:30
- ・作業場所: 小いたち川沿い
- ・作業目的: ホタルが舞える小いたち川への保全作業
- ・作業内容: 3部会合同での小いたち川沿いの除伐(草)作業
- ・持ち物: **長靴**、**常備具(カマ・手ノコ・ナタ)**、飲料水、防虫剤、他必需品

④ 日時: 12月9日(日) 9:30~14:30 定例作業

- ・集合場所: 池の下広場倉庫前 ・集合時間: 9:30
- ・作業場所: 尾根道・大丸エリア(区域 A)
- ・作業目的: 管理型スギ林への保全作業(オオタカの幼鳥の舞える林へ)
- ・作業内容: 林床整理(ネザサ・アオキ・枯れ木の除伐)
: カントリハッジ・ウォーターバーの設置
※次世代木(広葉樹)は遺して下さい。
- ・持ち物: **常備具(カマ・手ノコ・ナタ)**、お弁当、飲料水、防虫剤、他必需品
【持参器具】作業旗、シート、救急箱、チェンソー、ロープ、カケヤ、刈払機

(30年11、12月号の原稿に関し、上記活動報告は丸山氏、巻頭言は渡邊氏、リポートは柳下氏です。原稿の締め切りは**30年12月17日(月)**【年末の多忙、長期連休等の為に締切日を前倒しました】、押木氏迄宜しくお願いします。)

欠席される方は、メール(TOKAMI6666@aol.com)又は電話(894-2800)で山上部会長迄

【瀬上さとやまもりの会 活動日誌】

(1)平成30年9月9日(日) 晴れ 9:30~12:30 尾根道大丸エリア(区域 A)尾根道側

- ・参加者: 浅見、石渡、伊藤、枝村、武内、竹内、岡、小宅、佐谷、酒巻、戸賀澤、三島、長谷川、山上、渡部 15名
- ・活動内容 ●写真撮影、ラジオ体操し、本日の作業内容の説明後、作業道具を持ち移動。10時過ぎに作業地に到着。
- 2班に分かれ作業開始。大丸広場上の活動地(オオタカの巣立ちを見届ける)に、旧研修地の続きの上からと斜面地の下から攻めて、ササ、アオキ、シロダモ等の下草刈や林床整理。
- 女性陣は苗場の雑草取りをして、道場丸でのモニタリングを済ませ大丸広場上の活動地へ11過ぎに合流し、作業開始。
- 途中休憩を挟み、12時より昼食後打合せ。その後解散。
- 打合せ事項:チェンソー作業及び関連する作業も保険の対象となるスポーツ安全保険に入る

ように進める。安全講習会に山上、酒巻さんが参加し、その報告有。大丸広場ではツツドリ(托卵)を狙う鳥撮りが何人か居た。3部会合同の小さいち川沿いの除伐は12/1(土)が候補。



苗場の手入れ前



苗場を手入れ中



作業前の様子



作業前の様子



同左



同左

(2)平成30年9月23日(日) 晴れ 9:30~13:00 尾根道大丸エリア(区域 A)尾根道側

・参加者: 浅見、三島、伊藤、長谷川、小宅、枝村、山上、酒巻、高 9名

・活動内容 ●写真撮影、本日の作業内容の説明後、作業地に移動し、前回の作業を続行。

●小休憩を挟み、12:20頃まで作業し、昼食を取り 13 時過ぎ解散。



作業前の荒れた様子



同左



同左



作業中



同左



同左

(3)平成30年10月14日(日) 曇り(7時過ぎまで雨) 9:30~14:00 尾根道大丸エリア(区域 A)尾根道側

・参加者: 佐谷、三島、渡部、戸賀澤、武内、小島、枝村、伊藤、酒巻、山田、小宅、山上 12名

・活動内容 ●写真撮影、ラジオ体操、本日の作業内容の説明後、作業地に移動。

●伊藤、武内さんは倉庫にあった稲わらを苗場に敷詰めてマルチング。10時過ぎに作業地に到着後、2班に分かれて作業。1班は次回開催予定の谷戸ボラの子供体験教室で使用する切倒し用の小木(コースター用で直径10cm程度)の選定、玉切用馬型の作製と作業場所・伐採する小木までのアプローチの整地を、2班は前回に引続いて同じ作業(林床整理)を続行。

●11時過ぎ休憩を取り、昼食を挟み、12時半に午後の作業を開始し、2班が作業していた場所で、両班一緒に林床整理や遊歩道整備し、13時過ぎに作業終了。台風による倒木の処理のため、いっしんどう広場、中尾根経由で池の下広場に帰る。14時頃解散。●打合せ事項; 子供体験教室には13家族約30名が参加予定。4班体制で対応。NEXCOよりオオタカ保護の観点から指定地全ての伐採活動中止(繁殖期間、並びに非繁殖期間中の作業)の申入れ有。スポーツ安全保険には全員入るように進める。またチェーンソー作業時には保護具の着用が必要なため、揃える。



これから作業をします



同左



同左



作業中



同左



同左

(4)平成30年10月28日(日) 晴れ 9:30~13:30 谷戸の子供体験教室の開催

・参加者: 浅見、伊藤、枝村、小宅、佐谷、高島、竹内、長谷川、三島、山田、渡邊、渡部、中塚(事務局) 13名 谷戸の子供体験教室の参加者 20名(6家族)

・活動内容 ●写真撮影や体操をし、本日の作業内容を説明し、作業地に移動。

●受講者に当会紹介、実習内容、安全事項等の説明し、受講者を2班に分け、作業地に移動。10時過ぎに作業地に到着し、1時間程度伐採体験と玉切り実習(コースターを作製)を行い終了。その後、体験教室は現場で解散。

●11 時半より早目の昼食を取り、午後の作業を開始し、旧研修地の除伐などを続け、次回ボラ塾生を迎える準備を兼ね、刈払い機、チェーンソーを使用し作業。13 時まで。

●打合せ事項： ボラ塾の作業に際しては、スギ林のエリアは 10m 角に対して 1 本程度伐採し、シロダモは残し、広葉樹のエリアに分けて行う。林野庁の交付金に関してはモニタリングして、経過が分かるように伐採する。森愛護会は 40 周年を向かえ、11 月 6 日に式典があり、山上、佐谷さんで対応をする。スポーツ安全保険に全員加入し、チェーンソー作業対応とする。31年1月26日(土)に前年と同様に竹体験教室を開催し終了後新年会を持つことで、進める。この為1月13日(日)瀬上での初仕事の後、公田竹林へ午後移動して、26 日用の下準備切り出しをする。



体験教室を始めます



うまく玉切りが出来るかな



どの木を切るのかな



作業中



同左



作業後

(伊藤、山田、枝村記)

◆ リレートーク 「なぜ、雑木や雑草に魅かれるのか」

星野純明

「雑草」という名はよく耳にしますが、「雑木」という名はあまり聞くことがありません。

雑草といえば、踏んでも抜いてもなかなか消えぬ厄介者(クズ、ヨモギ、オオバコ、ドクダミなど)ほど、生命力が強くて薬草に利用されているものが多いようです。

では「雑木」というと「役立たずの木」となりますが、いまの時代、薪炭林は必要なくなり、建築用の木材も外材が多く使われているためミズナラ、クヌギ、コナラ、スギ、クス、シイ、タブ、カシ…もみんな「雑木」になってしまうのでしょうか。

でも、これら雑木(地域在来種)の生命力の強さが自然環境保全・自然災害減災・自然生態系再生の森として少しずつ注目されるようになってきまし



た。

日本では、古代から「山⇔田⇔川⇔海へと繋がる森」を徹底的に保全・再生してきました。そのおかげで様々な生態系が機能し、「きれいな美味しい水資源」「肥えた土」「きれいな空気」「豊かな海洋生物資源」に恵まれてきたわけです。「豊かな生態系があって、人間も存在できること」をもう一度しっかり認識したいものです。

自然生態系の保全なくして地球の環境問題が解決に向かうことは、永遠にない！

その自然生態系の根源がどこにでも生えている雑草・雑木ではないでしょうか？
地域の山の雑木・雑草を管理してきた「さとやまの会」の活動に（休会中の私ですが）大いなる意義を感じております。

◆ 編集後記

やっと秋らしくなってきた。台風、地震なくこのまま年の瀬を迎えたいと思う。こじゅけい通信の発行が2ヶ月に1回となり担当が一巡した。担当しない期間が長くなるのはいいが、担当になると活動報告が従来の2倍の量となり、それだけ、編集に時間を要し好ましくない。まあ1勝1敗の引き分けと言ったところか。

（枝村）